

旅のArt/I

あなただけの旅が色づき始める。

2013
June
Tabi no Atelier

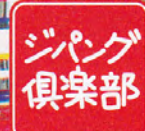
6

瀬戸内の島々をゆく

【第一特集】
美しい風景とアートを巡る旅



これからの生き方。



JR西日本ジパング倶楽部



がんばろう！日本

高松港 (イメージ)

軍師・黒田官兵衛を 姫路に訪ねる

秀吉を天下人へと押し上げた黒田官兵衛。姫路市に残るゆかりの地を訪ね、軍師官兵衛のルーツに迫る。



(イメージ) 1

廣峯神社 ●ひろみねじんじや

太古の昔から神が鎮座し、奈良時代に吉備真備によって陰陽道が伝えられ、暦を司る神として祭られた。暦は農業の基本となるため、農耕の神として西日本各地で信仰され、御師集団が各地に御札を配り歩いた。黒田重隆(官兵衛の祖父)は御師の情報網を活用し財力を蓄えたとされる。

姫路市広嶺山52
☎079-288-4777
境内自由 無休 無料
姫路駅から神姫バス「広嶺」下車、徒歩30分 または姫路駅から車で30分



(イメージ) 3

(イメージ) 2

1 廣峯神社拝殿。暦の神様、農耕の神様、生産の神様として信仰を集める。2 本殿裏の「九つの穴」。自分の星の守神に願いをし、事を小聲でささやく風習が残る。3 神社周辺に残る御師屋敷の土塀風景。

知られざる御師集団

姫路駅からバスと徒歩で約1時間、広嶺山に登り廣峯神社へ。官兵衛の祖父の代に、黒田家はこの神社と関わって勢力を伸ばしたという。「神社には古くから御札を配り歩く御師集団が組織され、地域との密接なつながりを通じて独自の情報網が出来ていました。それを黒田家が上手く使い、出世できたという事です」と幸田精久宮司。伝説では黒田家は御札と一緒に目録を販売するアイデアで財を成したという。「廣峯の御師は各地で農業指導も行います。その土木技術や知識は黒田官兵衛の高松城水攻めなどにも活かされたのでは」。軍師・官兵衛の背景に、歴史の表舞台には登場しない特殊能力集団の影が見え隠れする。

黒田家が仕えた小寺氏の本城が御着城から徒歩10分ほどの御着城址。「官兵衛は16歳で小寺政職の近習となり、姫路からここまで通い青春時代を過ごしました」と御着史跡保存会の井内義延会長。周辺には城主3代を祭る小寺大明神、黒田家廟所があり、御着ではどちらも保存継承をしている。

名所に残る官兵衛時代の記憶

播磨の名刹・書寫山圓教寺も官

兵衛ゆかりの地。バスとロープウェイを乗り継ぎ、山上へ。重厚なお堂が森閑と佇むこの山に、官兵衛は秀吉の本陣を移すよう進言したという。これは西に迫る毛利の大軍と東の三木で反旗を翻した別所氏に挟み撃ちされるのを回避するため。食堂内には当時駐屯した羽柴兵が落書きした柱が残され、戦乱の記憶を伝えている。

姫路城内にも官兵衛の時代を思わせる一角がある。それが十字架の鬼瓦を掲げる「に」の門櫓周辺。「石垣は古い野面積みですね。官兵衛が秀吉に進呈した城はこの辺りだったかもしれません」と播磨学研究の中元所長。面影はかすかだが「お城とはそういうもの。形を変えつつ最終的に世界遺産の域になったのですから、歴史の連続性はあります」。お城献上の奇策で秀吉の心を掴み、天下の軍師に飛躍した黒田官兵衛の原点がここにある。

書寫山圓教寺 ●しやざんえんぎょうじ
康保3年(966)性空(しょうく)上人により開かれた天台宗の修行道場。天正6年(1578)には黒田官兵衛の策により秀吉軍が大講堂北側の一角に布陣した。山上に自然とお堂、千年の歴史が調和する光景はまさに「西の比叡山」。映画「ラストサムライ」のロケ地としても有名。

姫路市書写2968
☎079-266-3327
ロープウェイ運行時間8:30~18:00(日曜・祝日は~19:00)
※季節によって変更あり
無休 入山志納金500円
姫路駅から神姫バス「書写駅」下車、書写山ロープウェイ乗り換え「山上駅」下車、徒歩20分



(イメージ) 2



(イメージ) 1

3つの堂。コの字型に大講堂、食堂(じきどう)、常行堂(じょうぎょうどう)が立ち並び、2柱の傷は秀吉軍が駐屯した際の羽柴小一郎(秀長)家臣の落書き。3天禄元年(970)創建の摩尼殿(まにてん)。



秀吉と官兵衛の天下取り“中国大返し”を味わう

官兵衛の筆頭家老・栗山善助の生誕地にある灘菊酒造。歴史ある蔵の中で味わえるのが、名物献立「大返しめし」だ。秀吉が中国大返しで姫路に戻ってきた時、金庫を空にして兵たちに大盤振舞いで士気を高めた逸話にちなみ、豪華でスタミナ満点の御膳を当時の材料や調理法によって考案。もちろん古い酒蔵群の見学も楽しめる。

灘菊酒造 ※写真は「大返しめし」コース。
姫路市手柄1-121 ☎079-285-3111
(食 事) 11:30~14:00、17:00~22:00
国火曜、日曜夜、年末年始
(酒蔵見学) 10:00~17:30 国年末年始
姫路駅から神姫バス「姫路市役所前」下車、徒歩7分



(イメージ) 2



(イメージ) 1

姫路城「に」の門櫓 ●ひめじょうにのもんやぐら
西面の破風(はふ)に使われる十字架の鬼板瓦は、キリシタンだった黒田官兵衛との関係を連想させるが、史実関係は不明。建物自体は秀吉時代のもので考えられており、石垣の積み方も明らかに古い。
姫路市本町68 ☎079-285-1146
国夏期9:00~17:00(4月27日~8月31日)
※通常期間は~16:00
12月29-30日(予定)
400円※天空の台輸入送料は別途200円
姫路駅から徒歩15分

官兵衛最大の危機と 恩人・竹中半兵衛

黒田官兵衛は、伊丹で織田家を裏切った荒木村重の説得に向かうが、囚われて1年あまり幽閉される。織田家では首信不通になった官兵衛は毛利に寝返ったと断定。預かっていた官兵衛の息子・松寿丸を殺すように命じるが、秀吉の軍師・竹中半兵衛の機転により松寿丸は半兵衛の城に匿(かくま)われ成長した。これがのちの黒田長政である。

御着城址 ●ごちゃくじょうし

西播磨の有力勢力だった小寺氏の本拠地。黒田家はこの小寺氏の家老を務めた。官兵衛の主君・小寺政職(まさもと)は、毛利方に回ったため、天正7年(1579)秀吉軍に攻められて落城。現在は資料を元に公園や公民館が城をイメージして復元されている。

姫路市御園町御着1142-8
国自由 無休 無料 御着城址から徒歩10分

御着城址の黒田家廟所。左が官兵衛の祖父・重隆、右が母・明石氏(いわ)の五輪塔。

(イメージ)

